

和寒町

松本朋子

1. 地名の由来

和寒は昔「輪寒」あるいは「和参」とも書かれ、アイヌ語の「ワットサム」から転訛したもので「ニレの木の傍ら」の意味である。昔、ニレの木が繁茂していたところから名づけられたものである。

2. 歴史

表1 和寒町の歴史と概要

| | |
|-------|--|
| 昭和9年 | 庁立除虫菊試験地設置。 |
| 昭和11年 | 西和郵便局開局。 字東丘の南雲源一郎氏所有のホルスタイン牛が天皇陛下の御覧に浴した。 |
| 昭和13年 | 和寒神社が現位置に設立。 |
| 昭和16年 | 和寒森林組合設立。 |
| 昭和18年 | 国民健康保険組合を設立事業開始。 |
| 平成12年 | 全日本スノーモビル選手権開催。 東山スキー場ロッジ完成。 道央自動車道旭川鷹栖IC～和寒IC開通。 一般廃棄物最終埋立処分場完成。 公民館「恵み野ホール」完成。 |
| 平成13年 | 第4次和寒町総合計画策定。 三笠山自然公園こどもの国リニューアルオープン。 南宗谷線地区広域米穀類乾燥調整貯蔵施設(米工房「天塩の大地」)完成。 |

明治30年、秋田県人・菊池伊七氏が、初めて定住(和人定住の始まり)し、明治32年国鉄天塩線の終着駅として和寒駅開設。現在の和寒幌加内線が5号まで開通。屯田用地を民有とし植民区画地が設定された。剣淵尋常高等小学校和寒教授場開設(和寒小学校の前身)。同上を和寒簡易教育所と改称。和寒郵便局開局。中和の涌井藤七氏が湧き水を利用して10坪の水田を試作。和寒第2簡易教育所(中和小学校の前身)和寒第3簡易教育所(三和小学校の前身)の開設。このころ西和の砂金掘りが始まる。須貝広夫氏が南部牛12頭を購入し飼育始める。真宗西本願寺派明光寺創立。辺乙部特別教授場開設(西和小学校の前身)。和寒町は、このような開基・入植を経て表1のような現在にいたっている。

3 . 地理・気候

3.1 地理

図 1 和寒町の位置



図 2 和寒町の位置

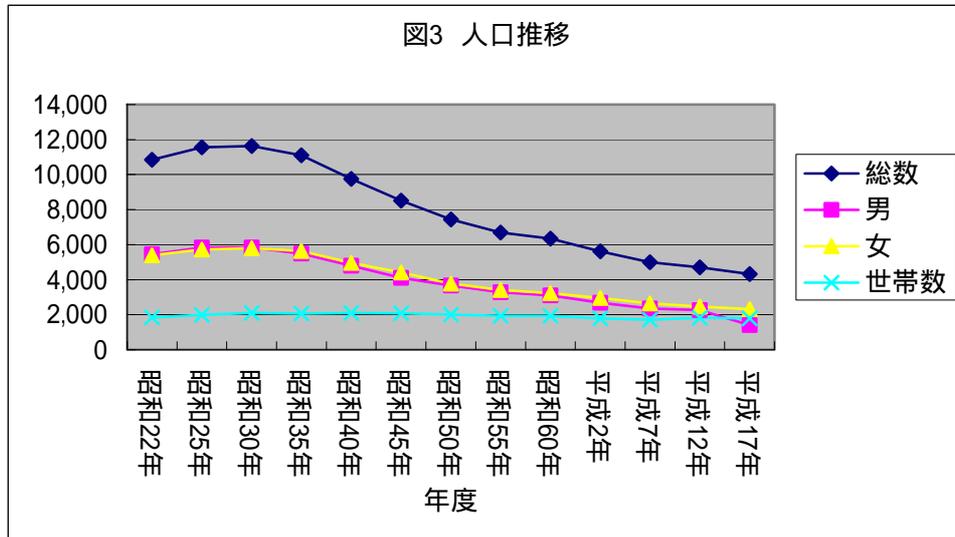


和寒町は、東経 142 度北緯 44 度の北海道の中央よりほぼ北側に位置し、旭川市から北に 36km の距離にある。比較的低い山岳に囲まれた丘陵地と中央部の低い平坦地からなる穀倉地帯で、総面積総面積 224.83 平方 km、人口約 4,500 人の町である。

3.2 気候

この土地特有の気候は、夏と冬では実に 70 度を超える驚異の温度差がありますが、春には桜が乱れ咲き、夏にはすんだ景色を緑に囲まれ、秋には紅葉、冬には一面の銀世界となり、四季それぞれの色を映し、人情あふれる町である。

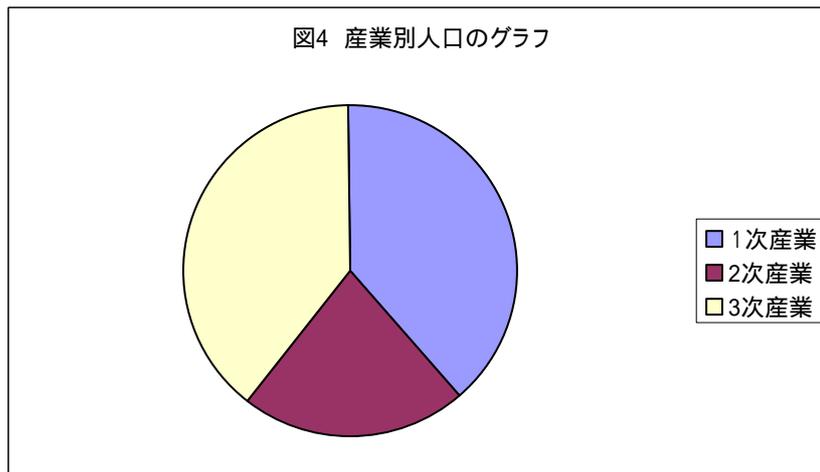
4 . 人口・世帯数推移



人口の総数は、昭和 30 年をピークに減少傾向にある。男女の人口推移は、ほぼ同じ割合で減少している。一方で、世帯数は、ほぼ横ばいで推移している。人口が減っているにも関わらず、世帯数が横ばいに推移しているのは、核家族化が進行しているとともに高齢者のみの世帯や単身高齢者が増えているという高齢化が進んでいるからである。

5 . 産業

5.1 産業別人口



日本では、3次産業の割合が6割を超えているが、和寒町の第3次産業は弱い。しかし、和寒町は農業のさかんな地域であるので、第1次産業の割合が高めである。農業の中でも特にカボチャとキャベツの生産が特出しているからである。

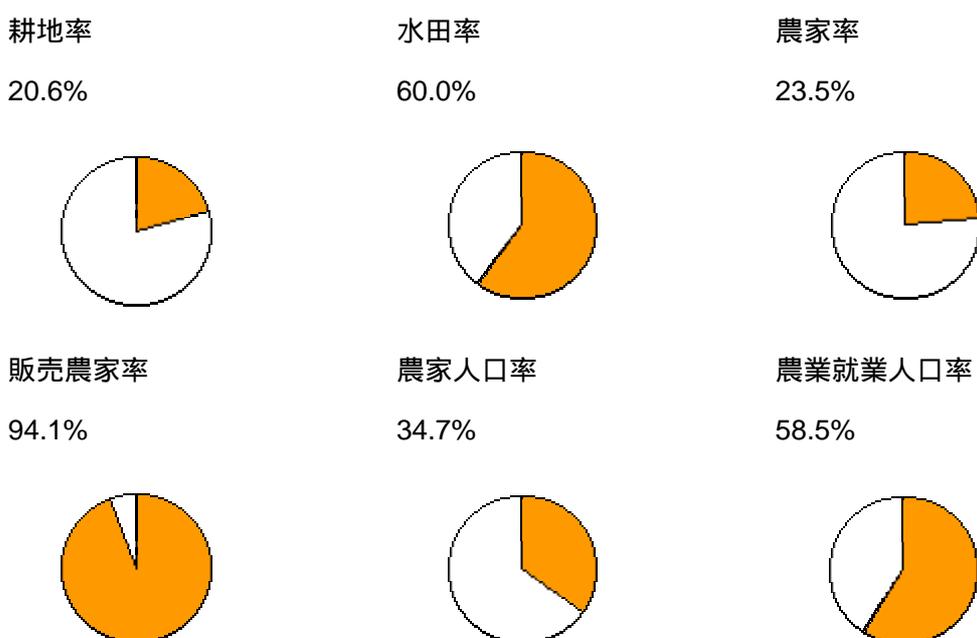
5.2 農業

表 2 主要農作物の状況

| 主要農作物の状況 | | | | | | |
|----------|-----------|--------------|-----------|-----------|--------------|-----------|
| | 平成 17 年 | | | 平成 16 年 | | |
| | 面積 /ha | 収穫 /10akg | 収穫量 /t | 面積 /ha | 収穫 /10akg | 収穫量 /t |
| 水稲 | 1,200 | 582 | 6,980 | 1,240 | 533 | 6,590 |
| 小麦 | 388 | 309 | 1,200 | 445 | 314 | 1,398 |
| 大豆 | 319 | 234 | 746 | 259 | 215 | 557 |
| 牧草 | 523 | 3,870 | 20,240 | 643 | 3,990 | 25,656 |
| 南瓜 | 655 | 1,170 | 7,670 | 570 | 1,500 | 8,560 |
| キャベツ | 82 | 6,000 | 4,900 | 84 | 6,762 | 5,680 |

収穫量は、水稲と大豆以外は、平成 16 年から平成 17 年にかけて減少している。やはり、特産品であるカボチャとキャベツの収穫量は他の作物に比べ特出しているといえる。9～10月に北海道産が主になり、その後は輸入品が多くなる。和寒産は北海道の各産地が出荷終了まで貯蔵管理をして、主に 10 月後半より冬至まで出荷されているのである。作付け面積 500ha で日本一の作付け面積である。

図 5 和寒町の農業状態

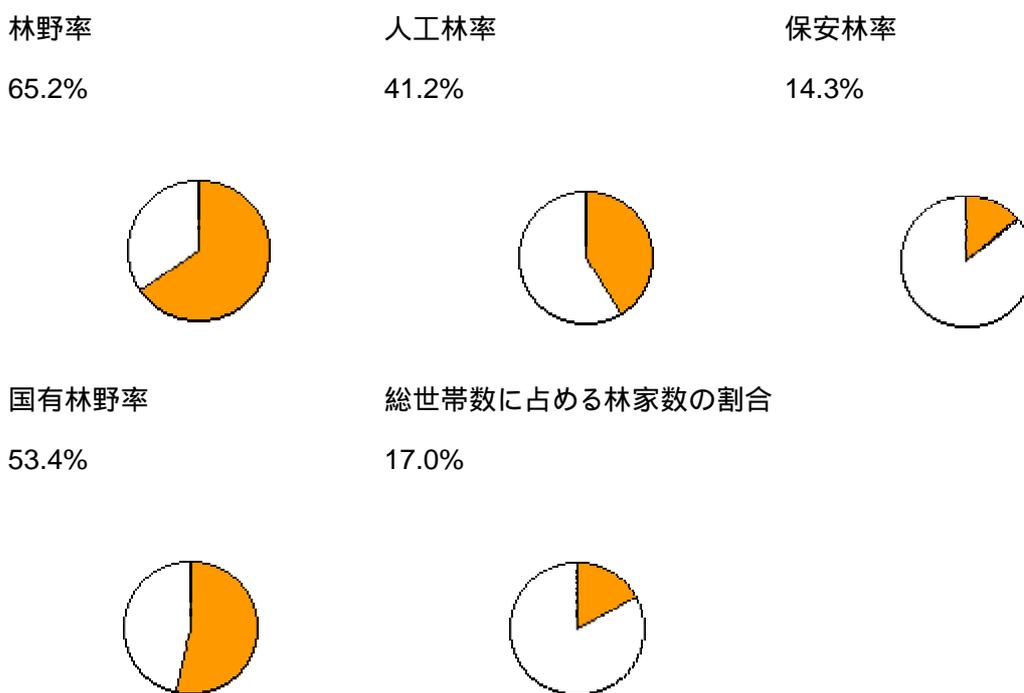


農業の中でも特に水田の割合が 6 割を占めているので、稲作がさかんな地域である。

農業就業人口率が半分以上を占めているのに、農家人口率がそれ以下の割合であるということは、家族単位で農家を営んでいるということであるのではないか。高品質米生産の一環として、和寒町が事業主体となって設置した米の集出荷施設がある。この施設は 1 市 3 町（土別市・和寒町・剣淵町・朝日町）の 5 農協で組織する「南宗谷地区農協広域カントリエレベーター運営委員会」が運営を行っているのである。

5.3 林業

図 6 和寒町の林業状態



国有林が半分以上占めていて、人工林はやや少ない割合である。総世帯数に占める林家数が少ないので、約 7 割を占める林野を少ない人数でまかなっているという現状である。

6 . 観光

6.1 名所

市街地から道々を旭川に向かうと約 10 分で周りを山々に囲まれ、幻想的な美しい湖のある南丘森林公園にたどり着きます。アウトドアスポーツの拠点としてカヌー、オートキャンプ、釣りや一周約 4km の遊歩道での森林浴などが楽しめ、シーズンにはたくさんの家族連れで賑わいをみせている所である。多目的広場では、せせらぎ水路で水に親しんだり、サッカーなどが楽しめる所である。

図 7 和寒町の観光名所



6.2 観光入り込み客数

観光入込客数は、それぞれの市町村で年度ごとに観光客数を調査しているもので、調査内容は、観光客が道内からか道外か、宿泊かもしくは日帰りかなどを調べており、このほど05年度の観光入込客数がまとまった。内訳は、全体で5万9869人。道内客が5万8225人、道外客で1464人。宿泊客については8137人で、日帰り客は5万4854人と日帰り客が全体の9割以上を占めている。和寒町は、昨年に塩狩温泉が休業したことが観光入込客数の減少となったものとみているようである。

参照ホームページ

和寒町：<http://www.town.wassamu.hokkaido.jp/>

産業のグラフと統計：

<http://www.toukei.maff.go.jp/shityoson/map2/01-02/464/economy.html>

産業別人口のグラフ：<http://local.yahoo.co.jp/static/a101/a201464/outline.html>